

小学部だより

筑波大学附属

桐が丘特別支援学校

小学部通信第 11 号

2017. 1. 31. 発行

2017 年を迎えました。まだまだ寒い日が続いていますが、よく見ると、梅の蕾は少しずつ膨らみ始めています。春はもうすぐそこですね。3 学期、1 年のまとめをしっかりとしながら、新しい学年へ向けて準備をしていきましょう。今年もどうぞよろしくお願いいたします。



折り鶴に込められた願い

12 月 6 日の合同道徳で、命について学びました。去年は、アメリカ合衆国のオバマ前大統領が広島を訪れ、広島東洋カープがリーグ優勝するなど、何かと広島が話題になりました。そこで、『おりづるの旅 さだこの祈りをのせて』（うみのしほ・作、狩野富貴子・絵）の話をもとに、改めて平和や命について考えました。児童の感想の一部を紹介します。



- ・ 禎子さんが亡くなった時、命を落とした時、悲しかった。(小 1 児童)
- ・ 今、私たちが生きている時代だったら、禎子さんももっと生きられたのにと考えた。(小 4 児童)
- ・ 若いのに、12 才でまだまだ生きられたのに、悲しい。(小 4 児童)
- ・ 禎子さんは戦争で病気になって、まだ 20 才にもなっていないし、大人にもなっていないし、そんなに長く生きていないから、かわいそうだなと思いました。戦争は危ないものだと思います。爆弾 1 つだけで命を落とす人もいるから、結構恐ろしいもの。(小 5 児童)
- ・ 僕たちも、1 人 1 人が、戦争をなくすためにできる限り努力をしなきゃいけないなと思いました。例えば、大げんかはしないようにしたり、爆弾をつくる人にならないようにしたりする。(小 5 児童)
- ・ 爆弾とかは絶対につくったり落したりしてはいけないと思います。爆弾のボタンを押しちゃうことで、さらに戦いが起こるので、絶対に押しちゃだめだと思います。(小 6 児童)
- ・ 戦争は起きない方がいいです。争いがなければ、原爆ドームは破壊されずにすんだ。(小 6 児童)
- ・ 戦争はしてはいけないんだなということを、僕は改めて思いました。こういう話を聞くと、やっぱり命ってとても大切なものなんだなと、僕は思います。(小 6 児童)